

原著 (Article)

カリキュラムポリシーから見た小学校教諭免許状取得可能学部における女子大学の教育内容の特徴

Characteristics of the educational content of Women's Colleges in Department Having the Teacher's License of Elementary School as Seen from Curriculum Policy

柴田 萌子*

SHIBATA, Moeko*

深谷 和義**

FUKAYA, Kazuyoshi**

摘 要

本論文は、共学大学と比較した女子大学の特徴を小学校教諭免許状取得可能学部に対してカリキュラムポリシーを中心に調査する。調査では、大学入試段階での偏差値と卒業時の進路として小学校教員になる割合が女子大学と共学大学でどのような傾向であるかを分析し、その結果が大学での教育の特徴と関係しているという仮説の元で考察する。大学での教育は各大学のカリキュラムポリシーとみなして、テキストマイニングにより比較分析した。その結果、女子大学の方が教員養成に関わるポリシーを強調しており、共学大学は広く一般的な大学としてのポリシーを強調していることがわかった。

キーワード：女子大学、教員養成課程、3つのポリシー、カリキュラムポリシー、小学校教諭一種免許状

Key words : women's college, teacher training course, 3 policy, curriculum policy, teacher's license of elementary school

1. はじめに

戦後日本の高等教育制度は1948年に発足し、1960年代に高等教育の大衆化が始まって以降、今日までに急速な拡大・発展を遂げ、大学の学校数・大学進学率が上昇していった。1960年の大学数は208校だったが、1980年には358校、2000年553校と増加の一途を辿り、2020年現在、文部科学省（2020）学校基本調査によると、大学の学校数は795校となっている。

そのような流れの中で女子大学も1960年は37校だった女子大学が1980年に88校、2000年には96校まで増加した。しかし、大学全体とは異なり、女子大学は近年減少傾向にある。2020年現在、文部科学省（2020）学校基本調査によると78校（国立大学2校、公立大学2校、私立大学74校）となっている。

女子大学は戦後から高等教育大衆化頃まで、女子教育の発展に大きな役割を担って

* 椋山女学園大学教育学部（2016年3月卒業） ** 椋山女学園大学教育学部

本論文は椋山女学園大学教育学部紀要の投稿・執筆規程2に基づき査読を受けた（2020年11月10日受付；2020年12月28日受理）

いた。しかし近年では女子大学の女子教育という使命が薄らぎ始め、女子大学設立当初の存在意義が成立しなくなっている。実際、一部の女子大学は、経済的要因などにより共学化している。現在、女子大学はその存在意義が問われているという厳しい現状にある。

現在の女子大学の多くは、戦前期から女子教育機関として創設され、戦後大学へ昇格したという歴史的背景がある。そのため、1970年頃までに新設・昇格によって設置された女子大学はその伝統を引き継いで専攻分野が人文・家政・教育に偏った教養型・職業型での設置となった（天野 1986）。天野は、職業型では服飾学科・生活造形学科・住居学科・児童教育学科等、家政学部の学科構成に見られるような職業専門教育が広がりを見せたと述べている。

現在の女子大学にも同じことが言える。筆者らが調査した女子大学と共学大学の学部分野ごとの学部数と学部数全体に対する各学部分野の割合は、女子大学の学部は文・人文系と生活科学系だけで合わせて71.3%を占める一方で、理、工、農の分野が合わせて1.8%と極めて少ない（柴田・深谷 2017）。

文・人文系の学部の中で職業型の代表的な例として、教員養成系学部があげられる。2020年現在、国公立合わせて795校ある大学の中で、小学校教諭一種免許状の取得が可能な（以下、小免取得可能とする）学部を擁する大学が256校ある（文部科学省 2019）。そのうち、女子大学は47校である。私立大学のみでは小免取得可能学部のある大学の学校数は全体で185校あり、その中で女子大学は45校と、小免取得可能私立大学の約24.3%を占める。私立大学全体の中で女子大学の割合が約12.1%であることを踏まえると女子大学は小免取得可能学部設置の割合が高いと言える。

次に、女子大学・共学大学それぞれの国公立別での学校数に対する小免取得可能学部を持つ大学の学校数の割合を表1に示す。それぞれの割合の下には、該当する大学の学校数とその学校種の小免取得可能学部を持つ大学の学校数も記載した。表1より、2校しかない国立の女子大学を除くと、国立の共学大学、私立の女子大学で高い割合となっている。私立大学同士で比較すると、共学大学は25.9%の設置率に対して女子大学では60.6%と半数以上が小免許取得可能学部を設置している。従って、小免

表1 小免取得可能学部を擁する学校数と割合

	女子大学	共学大学	合計
国立大学	100% (2/2校)	76.1% (64/84校)	76.7% (66/86校)
公立大学	0.0% (0/2校)	5.4% (5/92校)	5.3% (5/94校)
私立大学	60.8% (45/74校)	25.9% (140/541校)	30.0% (185/615校)
合計	60.3% (47/78校)	29.1% (209/717校)	32.2% (256/795校)

取得可能学部を持つ大学が多いということが女子大学の特徴の1つだと言える。

このような状況から本論文は、現在の女子大学の役割の一部を担っている可能性のある職業型学部として代表的な小免取得可能学部における女子大学の特徴を共学大学との比較で明らかにすることを目的とする。具体的には、入學段階の学生の偏差値、学部内での教育内容、卒業段階における教員になる学生の割合を女子大学と共学大学で比較する。なお、教育内容については学校教育法において設定・公表が義務化されている3つのポリシーにおける特徴を探る。

2. 3つのポリシーの設定・公表の義務化とその基本的な考え方

2016年4月に学校教育法施行規則の改正が行われ、2017年度から全ての大学で「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」、「カリキュラムポリシー（教育課程編制・実施の方針）」、「アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）」という3つのポリシーの設定と公表が義務づけられた。併せて、中央教育審議会（以下、中教審とする）大学分科会によって「『卒業認定・学位授与の方針』、『教育課程編制・実施の方針』、『入学者受け入れの方針』の策定及び運営に関するガイドライン（以下、策定及び運営に関するガイドラインとする）」が作成されている（中央教育審議会 2016）。この策定及び運営に関するガイドラインでは、2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」や、2012年中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」における3つのポリシーの考え方を踏まえ、下記のようにまとめている。

・ディプロマポリシー

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるもの。

・カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

・アドミッションポリシー

各大学、学部・学科の教育理念、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

これらの基本的な考え方を「各大学の教育理念を踏まえて3つのポリシーを策定

し、それに基づき「自らの教育理念の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか」という観点から、入学者選抜を「入口」、卒業認定・学位授与を「出口」としたとき、大学教育の「入口」から「出口」までの諸活動を一貫したものとして再構築することを求めている。

3. 調査方法

本論文は、職業型学部として代表的な小免取得可能学部における女子大学の特徴を共学大学との比較で明らかにすることを目的とする。小免許取得可能学部を擁する女子大学は、2校を除いて全て私立大学のため、本論文の調査対象は小免許取得可能学部を擁する私立大学のみとする。調査する学部・学科選定の基準としては、文部科学省がホームページにて公開している「小学校教員の免許資格を取得することのできる大学」（文部科学省 2019）に記されている4年制大学の学部を主として小学校教員の養成をする学部・学科としている。

まず、対象となる全ての女子大学と共学大学の小免許取得可能学部入学者の入学時の学力偏差値を比較し、策定及び運営に関するガイドラインにおいて「入口」とされる入学段階で違いがあるかを調査する。

次に、小学校教員免許状取得可能学部における「出口」の比較として、卒業の翌年度に小学校教員になる割合を各大学がホームページにて公開している情報から調査する。前述の通り、女子大学において小免許状取得可能学部を持つ私立大学の数は45校、共学大学のそれは140校あり、その中で小学校教諭や保育士・幼稚園教諭のように具体的な職種ごとの割合が明記されている大学数はそれぞれ28校と49校であった。データ取得から除外した一例としては、「教育・学習支援業」のように、学校教員と特定できない記載方法のものである。また、小免取得可能学部では、ほとんどの大学で保育士・幼稚園教諭の免許状も併せて取得可能だったため、保育士・幼稚園教諭になる割合も調査した。

さらに、女子大学と共学大学における小免取得可能学部の教育内容における違いを見るために、女子大学と共学大学それぞれの小免取得可能学部のカリキュラムポリシーに対しテキストマイニング用ソフトウェア KH Coder（樋口 2014）で階層的クラスタ分析を行う。調査した大学は、女子大学・共学大学の小免許取得可能学部についてのカリキュラムポリシーが明記された大学数が女子大学で40校だったため、その数に合わせて共学大学では小免許取得可能学部のカリキュラムポリシーが明記されている大学を無作為に40校抽出した。

4. 結果と考察

4.1 大学入試における偏差値の特徴

女子大学と共学大学における小免取得可能学部の入学偏差値を調査した結果を表2に示す(河合塾 2020)。表2では、偏差値35以下のボーダーフリー (BF)、35～39、40～44、45～49、50～54、55～59、60～64、65以上の8つに分け、その学校数を示した。また、8つに分けたそれぞれの範囲の大学の偏差値の値を便宜上32.5、37.5、42.5、47.5、52.5、57.5、62.5、67.5として女子大学と共学大学の偏差値の平均を比較すると女子大学は41.7、共学大学は43.6で女子大学の方が低かった。また、女子大学はBF学部の割合が共学大学のそれに比べると8ポイント多く、偏差値で55以上の高い学部が7ポイント少ないということがわかった。

このように、学力においては入学時には女子大学に入学する学生の方が共学大学に比べ低いということがわかった。

表2 大学入学時における偏差値ごとの学校数と割合

偏差値	BF	35 ～ 39	40 ～ 44	45 ～ 49	50 ～ 54	55 ～ 59	60 ～ 64	65 ～	計
女子大学	11 (24%)	12 (12%)	5 (11%)	9 (20%)	6 (13%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	45
共学大学	22 (16%)	37 (26%)	20 (14%)	31 (22%)	15 (11%)	9 (6%)	5 (4%)	1 (1%)	140

4.2 大学卒業時の小学校教員になる割合の特徴

各大学がホームページにて公開している情報から調査した小免取得可能学部における卒業の翌年度に小学校教員になる割合は女子大学が45.9%で共学大学の30.2%よりも高い。一方、保育・幼稚園教諭では共学大学の方が41.9%と女子大学の36.3%よりも高い結果となった。女子大学でも、小免と保育士・幼免を取得することができる学部が多くあるが、主とする取得免許によって別の学部に分かれている大学が多かったことで、今回の調査の対象学部においては保育士・幼稚園教諭が少ない結果になった理由の1つと考えられる。

4.3 カリキュラムポリシーに見られる特徴

女子大学、共学大学それぞれのカリキュラムポリシーからいずれもクラスター数9で階層的クラスター分析した。そのうち、女子大学の分析結果を図1に示す。階層的クラスター分析で得られた結果から、それぞれのクラスターに名前をつけた。階層的クラスター分析では、出現パターンの似通った語がクラスターとしてまとまる。カリキュラムポリシーにおいてクラスターごとにKWIC (Key Words in Context) 分析し、筆者らが命名したクラスター名を次に示す。

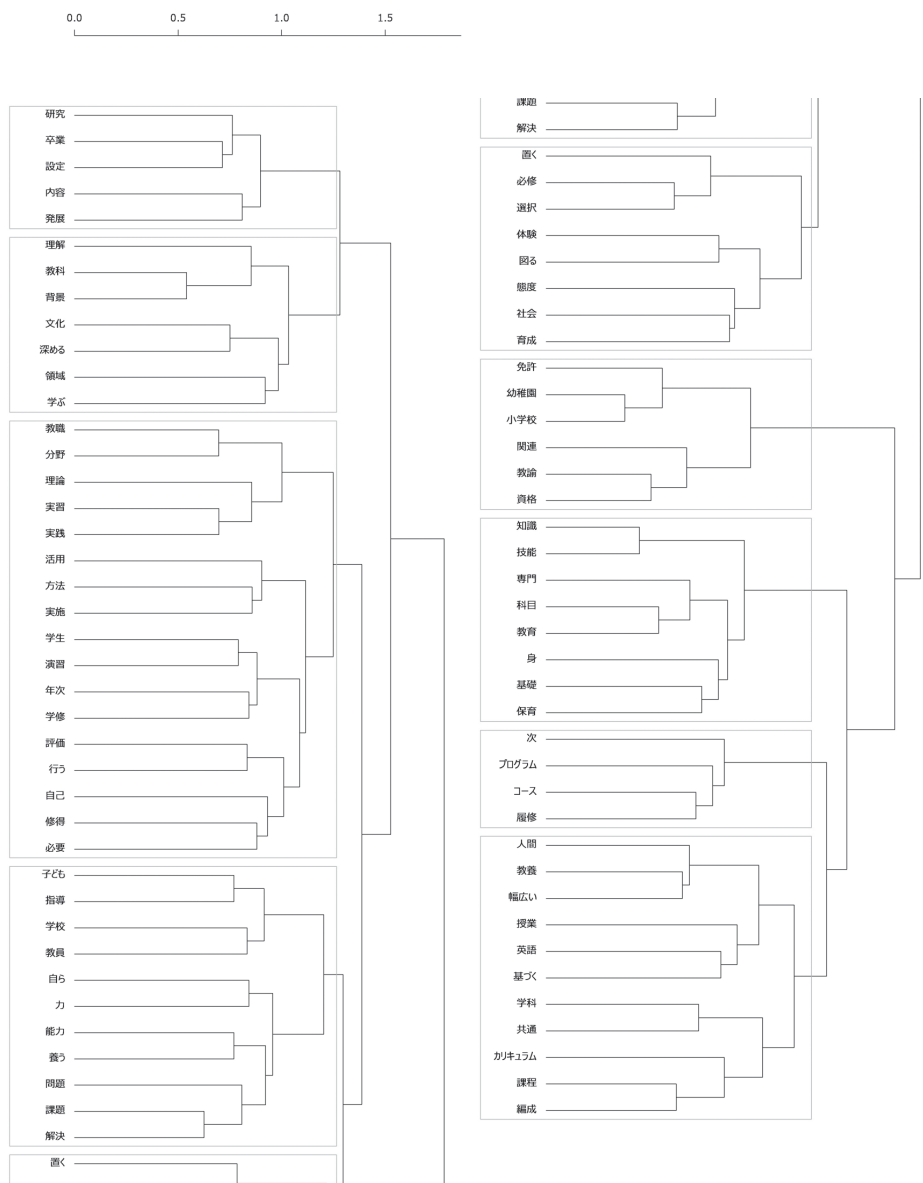


図1 女子大学のカリキュラムポリシーにおける階層的クラスター分析

- ・女子大学
 - A1 卒業研究の位置づけ
 - A2 教科教育における理解の深化
 - A3 教職分野の各年次における実習や演習のカリキュラム
 - A4 教員として子どもを指導する能力の養成
 - A5 選択・必修科目の配置
 - A6 小学校・幼稚園教諭免許状の取得
 - A7 保育に関する基礎的な知識・技能

- A8 履修できるプログラムやコース
- A9 学部・学科のカリキュラム概要
- ・共学大学
 - B1 学位授与のための要件設定
 - B2 教員として授業をするための実践的なカリキュラム
 - B3 小学校や特別支援学校の教職教科
 - B4 「思考・判断・表現」に関する科目の設定
 - B5 「知識・技能」に関する科目の設定
 - B6 卒業論文等の学修成果の評価基準
 - B7 各年次における科目配置の概要
 - B8 保育・体育教諭育成の体系的な科目設定
 - B9 学科・コースにおける履修概要

女子大学と共学大学のクラスターにおいて、以下の3つに分類する。1つ目は教員養成に特化して記述されていると筆者らが判断した語を使用しているクラスターである。これを、教員クラスターと呼ぶ。2つ目は、学部・学科の広く一般的な大学としてのポリシーを示していると考えられるクラスターである。これを一般クラスターと呼ぶ。3つ目は、教員養成に特化しているとも学部・学科の広く一般的な大学としてのポリシーを示しているともとれる語を含むクラスターとした。これを、混合クラスターと呼ぶ。教員クラスターに分類した条件の語は、「実習」「演習」「小学校」「学校」「教職」「子ども」「教諭」「資格」「幼稚園」「保育」で、具体的に教員養成に関する記述が確認された文章に出現していた語である。混合クラスターに分類した語は、「実践」「科目」「教育」「授業」とし、教員養成のための学部・学科のカリキュラムを含む全ての授業に関する様々な記述が確認されたものを設定した。ただし、KWIC分析の結果、3つの分類基準の語の通りに分類すると内容的に相違の出るものは例外的に分類の基準と異なる判断を行った。

上記の分類基準に沿って、女子大学と共学大学のカリキュラムポリシーのクラスターを分類すると、表3のようになった。

表3 女子大学と共学大学のカリキュラムポリシーにおけるクラスター分類

クラスターの種類	女子大学	共学大学
教員クラスター	A2, A3, A4, A6, A7	B2, B3, B8
一般クラスター	A1, A5, A8, A9	B1, B4, B5, B6, B9
混合クラスター		B7

女子大学は教員クラスター数が5と、共学大学に比べて多い結果となった。一方で他のクラスター数は共学大学の方が多かった。

これより、女子大学の方が教員養成に関する記述を強く示しており、共学大学は教員養成のみではなく学部・学科全体でのカリキュラムに関する記述を強く示している

ということが言える。

5. まとめ

本論文は、女子大学が共学大学に比べ小免許取得可能学部を擁する大学の割合が多いことに着目し、その特徴を明らかにすることを目的とした。

調査の結果、私立小免許取得可能学部において女子大学の入学者の方が共学大学に比べ偏差値が低い、卒業後は小学校教諭になる割合が高いことがわかった。そこで、カリキュラムポリシーにおける教育内容を見ると女子大学の方が教員になることを意識した記述が多いことがわかった。これは、女子大学では大学生が教員となるために必要な教育をすることを意識したカリキュラムを提供しているということが言え、現在の女子大学も伝統的に職業専門教育において一定の役割を果たしているということが示唆された。

謝 辞

本論文において、貴重なご意見・ご助言くださった相山女学園大学教育学部の野崎健太郎准教授に深く感謝し、熱く御礼申し上げます。

■引用文献

- 天野正子編著（1986）女子高等教育の座標、垣内出版、東京
- 中央教育審議会（2016）「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、及び「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー）策定及び運用に関するガイドライン、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afildfile/2016/04/01/1369248_01_1.pdf（参照日2020.10.15）
- 樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—、ナカニシヤ出版、京都
- 河合塾（2020）Kei-Net 大学検索システム、<https://www.keinet.ne.jp/university/ranking/>（参照日2020.10.15）
- 文部科学省（2019）小学校教員の免許資格を取得することのできる大学、https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afildfile/2019/03/29/1287044_1.pdf（参照日2020.10.15）
- 文部科学省（2020）学校基本調査、<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&ut=datalist&tokei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001143426&tclass2=000001143427&tclass3=000001143428&tclass4=000001143430>（参照日2020.10.15）
- 柴田萌子、深谷和義（2017）大学理念のテキストマイニングによる女子大学の特徴分析、日本教育工学会研究報告集、JSET17-1、pp. 103-108